

情報処理技能検定試験

表計算

模擬問題集

Microsoft Excel 2010

試験問題解答方法

2021 年 4 月

表計算

初段_編



日本情報処理検定協会

情報処理技能検定試験（表計算）についての注意事項や作成手順などを紹介します。ここで紹介する手順は、Microsoft Excel2010 を基に説明しています。

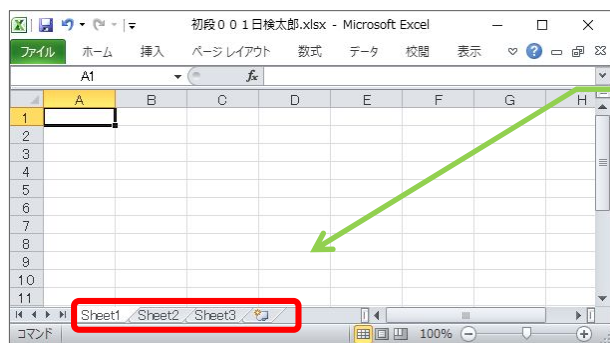
練習を始める前に

初段で使用する Excel の機能

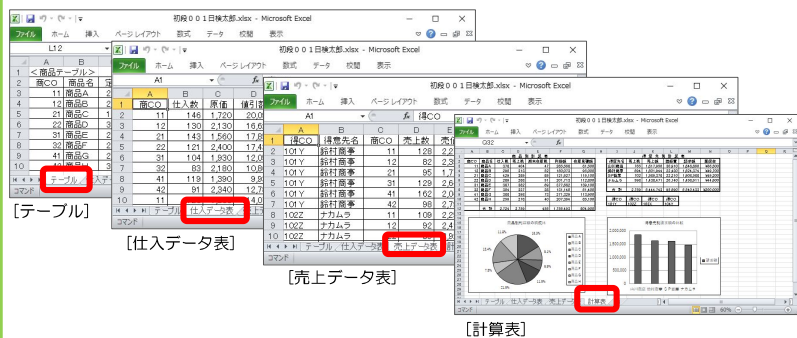
初段は、すべての問題で複数のシートを使用してそれぞれ表やグラフを作成します。Excel 画面下にある「Sheet1」がシートのタブになります。

- ・シートを増やす
- ・シートの名前を変更する
- ・シートの切り替え

などを行い解答を進めます。※操作の手順は解答方法を参照。



例)



問題の構成

問題は、A3サイズの見開きとなります。試験開始前には下図のように折り畳まれ下図のように「説明文」がある面が上になった状態で配布されます。試験実施まで開くことはできません。



■破線内の文章について

破線内の内容は、検定の基本的なルール（項目の配置や表示形式の設定など）が記載されています。詳細は18ページをご確認ください。

採点の対象となる項目もありますので、試験や練習する前によく読んで解答してください。

開始の合図で問題を開きます。中は下図のような構成になっています。

<入力データ>

<商品テーブル>
<割引率テーブル>
<得意先テーブル>

<処理条件>

検定問題文

<入力データ> (各24件) ※テキストデータは、右のフォルダー内のデータを使用する。

【仕入データ表】		【売上データ表】	
商品C	仕入額	商品C	売上額
11	140	11	125
12	140	12	125
13	140	13	125
14	140	14	125
15	140	15	125
16	140	16	125
17	140	17	125
18	140	18	125
19	140	19	125
20	140	20	125
21	140	21	125
22	140	22	125
23	140	23	125
24	140	24	125

<商品テーブル> (テーブル)

商品名	仕入額	売上額
商品A	2,400	2,400
商品B	2,400	2,400
商品C	2,400	2,400
商品D	2,400	2,400
商品E	2,400	2,400
商品F	2,400	2,400
商品G	2,400	2,400
商品H	2,400	2,400
商品I	2,400	2,400
商品J	2,400	2,400
商品K	2,400	2,400
商品L	2,400	2,400
商品M	2,400	2,400
商品N	2,400	2,400
商品O	2,400	2,400
商品P	2,400	2,400
商品Q	2,400	2,400
商品R	2,400	2,400
商品S	2,400	2,400
商品T	2,400	2,400
商品U	2,400	2,400
商品V	2,400	2,400
商品W	2,400	2,400
商品X	2,400	2,400
商品Y	2,400	2,400
商品Z	2,400	2,400

<割引率テーブル> (テーブル)

商品名	仕入額	割引率
商品A	2,400	0.1
商品B	2,400	0.1
商品C	2,400	0.1
商品D	2,400	0.1
商品E	2,400	0.1
商品F	2,400	0.1
商品G	2,400	0.1
商品H	2,400	0.1
商品I	2,400	0.1
商品J	2,400	0.1
商品K	2,400	0.1
商品L	2,400	0.1
商品M	2,400	0.1
商品N	2,400	0.1
商品O	2,400	0.1
商品P	2,400	0.1
商品Q	2,400	0.1
商品R	2,400	0.1
商品S	2,400	0.1
商品T	2,400	0.1
商品U	2,400	0.1
商品V	2,400	0.1
商品W	2,400	0.1
商品X	2,400	0.1
商品Y	2,400	0.1
商品Z	2,400	0.1

<得意先テーブル> (テーブル)

得意先名	仕入額	売上額
得意先A	2,400	2,400
得意先B	2,400	2,400
得意先C	2,400	2,400
得意先D	2,400	2,400
得意先E	2,400	2,400
得意先F	2,400	2,400
得意先G	2,400	2,400
得意先H	2,400	2,400
得意先I	2,400	2,400
得意先J	2,400	2,400
得意先K	2,400	2,400
得意先L	2,400	2,400
得意先M	2,400	2,400
得意先N	2,400	2,400
得意先O	2,400	2,400
得意先P	2,400	2,400
得意先Q	2,400	2,400
得意先R	2,400	2,400
得意先S	2,400	2,400
得意先T	2,400	2,400
得意先U	2,400	2,400
得意先V	2,400	2,400
得意先W	2,400	2,400
得意先X	2,400	2,400
得意先Y	2,400	2,400
得意先Z	2,400	2,400

<処理条件>

1. <入力データ> (テキストデータ、日本語シフトJIS、CSV形式) を使用し、<出力形式1>のような表を作成。

<出力形式1> (仕入データ表)

商品C	仕入額	商品C	売上額
11	140	11	125
12	140	12	125
13	140	13	125
14	140	14	125
15	140	15	125
16	140	16	125
17	140	17	125
18	140	18	125
19	140	19	125
20	140	20	125
21	140	21	125
22	140	22	125
23	140	23	125
24	140	24	125

1) 割引率は<割引率テーブル>を参照し求める。

<割引率の計算式>

仕入額	割引率	割引額
100以上	10%	10000
5000以上	5%	50000
それ以外	0%	0

2) 仕入額=原価×仕入額-割引額

2. <入力データ> (テキストデータ、日本語シフトJIS、CSV形式) 、<得意先テーブル>、<商品テーブル>、<割引率テーブル>を使用し、<出力形式2>のような表を作成。

<出力形式2> (売上データ表)

得意先名	仕入額	商品C	売上額
得意先A	2,400	11	125
得意先B	2,400	12	125
得意先C	2,400	13	125
得意先D	2,400	14	125
得意先E	2,400	15	125
得意先F	2,400	16	125
得意先G	2,400	17	125
得意先H	2,400	18	125
得意先I	2,400	19	125
得意先J	2,400	20	125
得意先K	2,400	21	125
得意先L	2,400	22	125
得意先M	2,400	23	125
得意先N	2,400	24	125

1) 得意先名は<得意先テーブル>を参照し求める。

2) 売上額=仕入額×(1-割引率) (整数未満切り捨て)

3) 売上額=売上額×売上数

3. <出力形式1>、<出力形式2>、<商品テーブル>を基に、<出力形式3>のような表を作成。

<出力形式3> (計算表)

商品C	仕入額	売上数	売上額	利益額	在庫見積額
11	140	125	125	0	0
12	140	125	125	0	0
13	140	125	125	0	0
14	140	125	125	0	0
15	140	125	125	0	0
16	140	125	125	0	0
17	140	125	125	0	0
18	140	125	125	0	0
19	140	125	125	0	0
20	140	125	125	0	0
21	140	125	125	0	0
22	140	125	125	0	0
23	140	125	125	0	0
24	140	125	125	0	0

1) 商品名は<商品テーブル>を参照し求める。

2) 仕入額、売上数は基表の同項目の値を集計。

3) 期末在庫数=期首在庫数+仕入額-売上数

4) 利益額=売上額-仕入額 ※各項目は基表の同項目の値を集計

5) 在庫見積額=定価×期末在庫数×0.7 (100位未満切り捨て)

4. <出力形式2>を基に、<出力形式4>のような表を作成。

<出力形式4> (計算表)

得意先名	仕入額	売上数	売上額	利益額	在庫見積額
得意先A	2,400	125	125	0	0
得意先B	2,400	125	125	0	0
得意先C	2,400	125	125	0	0
得意先D	2,400	125	125	0	0
得意先E	2,400	125	125	0	0
得意先F	2,400	125	125	0	0
得意先G	2,400	125	125	0	0
得意先H	2,400	125	125	0	0
得意先I	2,400	125	125	0	0
得意先J	2,400	125	125	0	0
得意先K	2,400	125	125	0	0
得意先L	2,400	125	125	0	0
得意先M	2,400	125	125	0	0
得意先N	2,400	125	125	0	0

1) 売上数、売上額は、基表の同項目の値を集計。

2) 利益額は<利益額の計算式>を参照し求める。

<利益額の計算式>

売上数	売上額	利益額
100以上	10000	10000
5000以上	50000	50000
それ以外	0	0

3) 請求額=売上額+請求額

4) 新入金=200,000×(100位未満四捨五入) (円表示)

5) 請求額の降順に並べ替える。

5. <出力形式3>を基にグラフを「計算表」シートに作成。 6. <出力形式4>を基にグラフを「計算表」シートに作成。

1) グラフの種類は、商品名別の利益額の割合を表す円グラフ。 1) グラフの種類は、得意先名別の請求額の縦棒グラフ。

2) グラフタイトル、凡例、データラベルの表示形式は以下の 2) グラフタイトル、凡例は以下のとおりとする。

商品別利益額の構成比

得意先別請求額の比較

本問題で使用する CSV ファイルの入っているフォルダーとファイル名 ([] で囲まれている文字がファイル名)、またデータの一部内容、データの件数などが記載されています。<入力データ>は問題ごとに異なります。

■<商品テーブル>・<割引率テーブル>・<得意先テーブル>

本問題の処理条件の中で使用するテーブルや表が記載されています。これらのテーブルは、「テーブル」シートに入力します。使用するテーブルは問題ごとに異なります。

■<処理条件>

本問題で作成する表の形式である<出力形式>や、表を作成する際に設定する計算式などの処理が記載されています。

<処理条件>の中に、どの出力形式で作成するかの指示があるので、指示に従い作成します。

最終的にこの形式の表を作成し、答案として提出します。

<処理条件>や作成する表の形式、数は問題によって異なります。

検定のポイント

初段と下位級の違い

- ・ 答案はデータのみ提出となります。印刷は必要ありません。
- ・ CSV ファイルのデータをインポートして表を作成します。
- ・ 複数のシートに表を作成し、それらのシートを活用して<処理条件>にある内容で処理をし、表を完成させます。
- ・ <処理条件>のそれぞれの項番ごとに<出力形式>があり、指示に従って作成します。

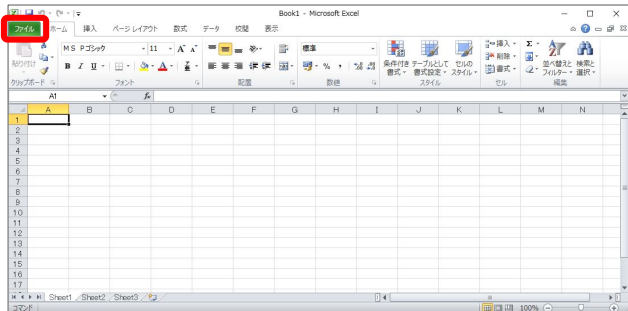
2

試験前にすること

ファイルの保存

作成するファイルに名前を付けて保存します。ここではデスクトップにファイルを保存します。

(1)[ファイル]タブをクリックします。



(2)[名前を付けて保存]を選択します。



(3)任意の場所を選択して、ファイル名に「初段・受験番号・名前」を入力して[保存]をクリックします。



検定のポイント

- ・ 受験番号は試験日当日までに発表されます。
- ・ ファイルの保存場所は試験監督の指示に従ってください。

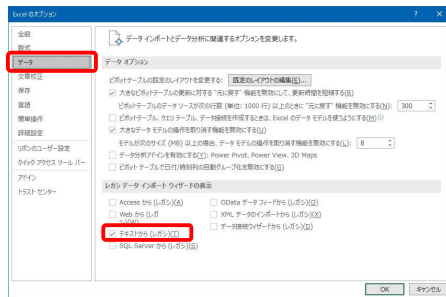
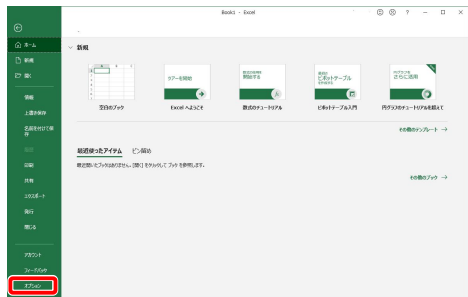
試験終了後このファイルに上書き保存をします。

操作のポイント

Excel のバージョンによっては、テキストインポートウィザードでインポートができない場合があります。事前に下記の設定を行ってください。

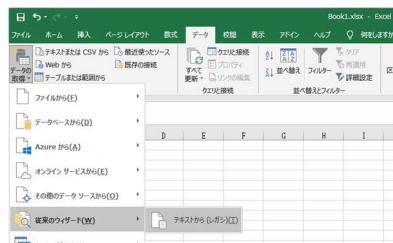
■インポート事前設定

[ファイル]タブ-[オプション]-[データ]の[レガシデータインポートウィザードの表示]にある、[テキストから(レガシ)]にチェックを入れて[OK]をクリックします。



■インポートの方法

[データ]タブ-[データの取得と変換]グループ-[データの取得]-[従来のウィザード]から、[テキストから(レガシ)]を選択し、インポートを進めます。



初段解答方法

CSVファイルを使用して表を作成する

初段では、あらかじめ用意されているCSV形式のデータを使用して表を作成します。

<入力データ>（24件）

【仕入データ表】

商CO	仕入数	原価
11	146	1,720
12	130	2,130
21	143	1,560
22	121	2,400
31	104	1,930
:		
22	92	2,220
31	128	1,690
32	81	2,120
41	123	1,220
42	79	2,450

Excel で開いた CSV ファイル

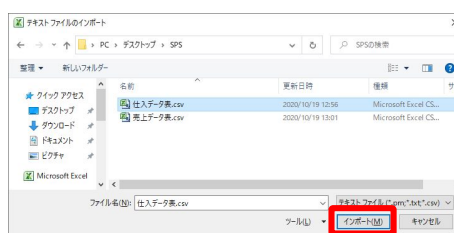
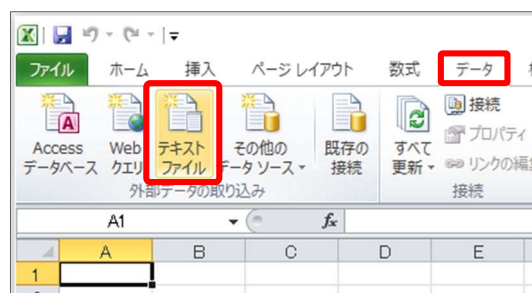
名前を付けて保存した Excel ファイル

例. <入力データ>（テキストデータ、日本語シフト J I S、C S V形式）を使用し、<出力形式 1 >のような表を作成。

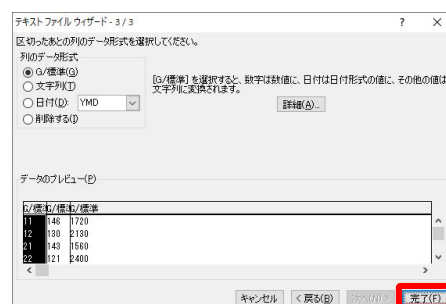
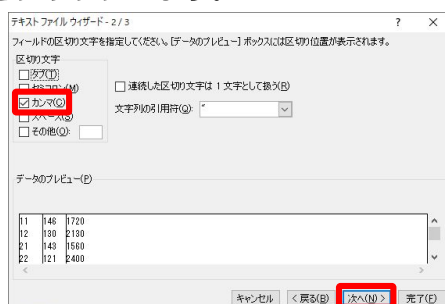
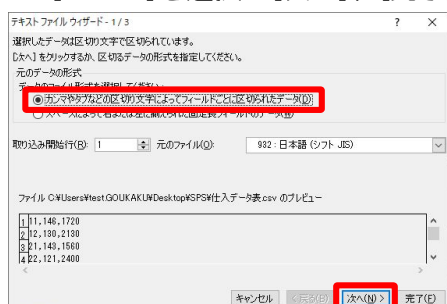
<出力形式 1 > 【仕入データ表】

商CO	仕入数	原価	値引額	仕入額
(途 中 省 略)				
合 計				

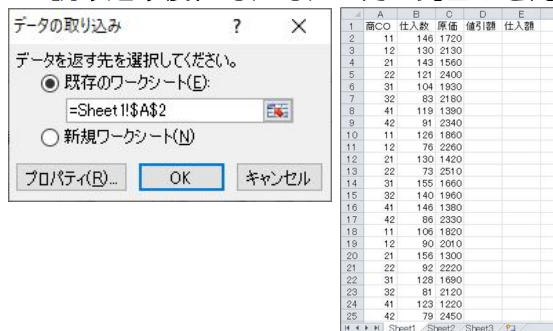
(1) [データ]タブ-[テキストファイル]を選択し、任意のファイルを選択して[インポート]ボタンをクリックします。



(2) [カンマやタブなど区切り文字によってフィールドごとに区切られたデータ]を選択し[次へ]、[区切り文字]は [カンマ]を選択し[次へ]、[完了]をクリックします。



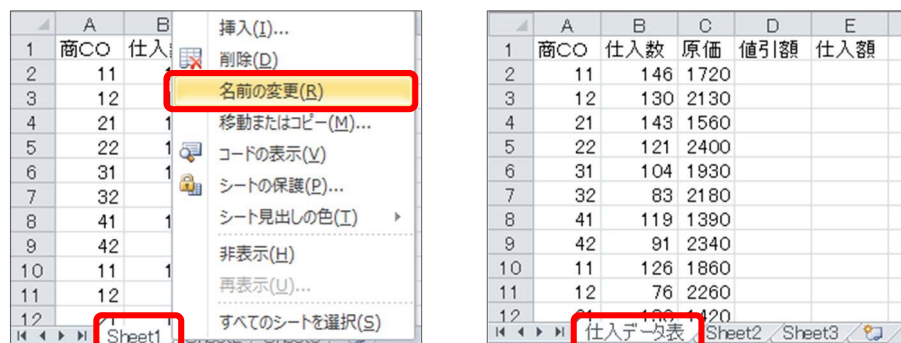
- (3) [既存のワークシート]に入力データを読み込む任意のセルの位置をセットし、[OK]をクリックします。
読み込み後、それぞれの列の見出しを問題文の＜入力データ＞を参照し入力、必要に応じ列を移動します。



操作のポイント

貼り付けたデータの見出しは＜入力データ＞を確認します。

- (4) シートのタブの上で右クリックし、[名前の変更]を選択、問題文の出力形式の [] 内を参照しシート名を入力します。（今回は「仕入データ表」）

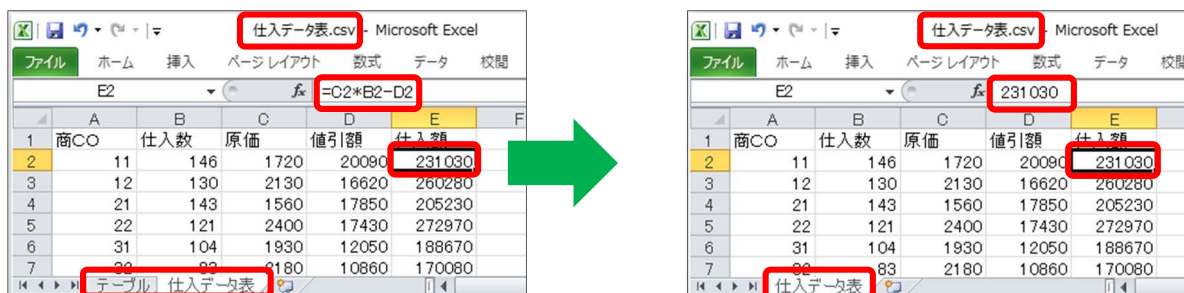


＜処理条件＞に従い、計算式などを設定します。

操作のポイント

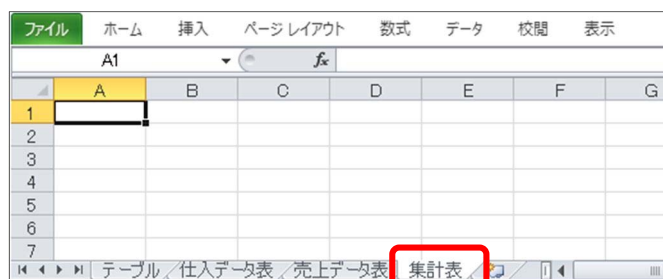
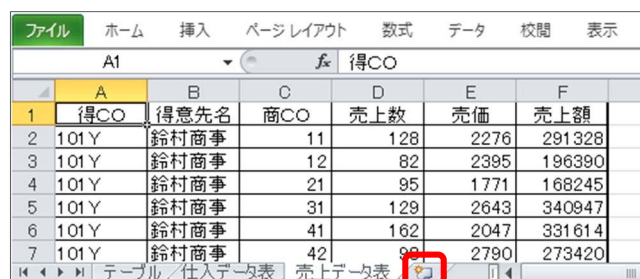
CSV ファイルを直接開いて処理を進めても問題ありませんが、式やシートは CSV 形式のファイルでは保存されません。保存時に Excel 形式で保存するようにしてください。

CSV ファイルを開いて数式の設定やシート追加などの処理をし、そのままの形式で保存したあと再度開くと式を入れた項目は値になり、[テーブル]シートはなくなる。



新しいシートを追加する

シートの横にある アイコンをクリックしてシートを増やし、シート名を変更します。



ここからは初段で使用する関数や式の応用について解説します。

別のシートを参照する

別のシートにある表やテーブルを参照して処理を行います。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	<商品テーブル>				<割引率テーブル>		<得意先テーブル>			
2	商CO	商品名	定価	期首在庫数	区分	割引率	得CO	得意先名		
3	11	商品A	2,480	73	X	9.1%	101Y	鈴木商事		
4	12	商品B	2,610	69	Y	8.2%	102Z	ナカムラ		
5	21	商品C	1,930	46	Z	7.3%	103X	SP総業		
6	22	商品D	3,160	53			104Y	山川商店		
7	31	商品E	2,880	64						
8	32	商品F	2,310	71						
9	41	商品G	2,230	53						
10	42	商品H	3,040	62						

	A	B	C	D	E	F	G
1	商品別計算表						
2	商CO	商品名	仕入数	売上数	期末在庫数	利益額	在庫見積額
3	11	商品A	378	404	47	285,568	81,500
4	12	商品B	296	313	52	160,073	95,000
5	21	商品C	429	389	86	121,627	116,100
6	22	商品D	286	288	51	201,713	112,800
7	31	商品E	387	382	69	377,682	139,100
8	32	商品F	304	337	38	131,140	61,400
9	41	商品G	388	368	73	271,326	113,900
10	42	商品H	256	278	40	207,364	85,100
11		合計	2,724	2,759	456	1,756,493	804,900

=VLOOKUP (A3, テーブル!\$A\$3:\$D\$10, 2, 0)

※「テーブル!\$A\$3:\$D\$10」は「テーブル」という名前のシートのセル範囲「A3 から D10」

※シート名の後に感嘆符「!」を入力し、続けてセル参照の開始位置を指定することで他のシートにあるセルを参照できます。

<商品テーブル>は「テーブル」シートに作成されているので、「テーブル」シートを参照し表検索をします。

「範囲」は「テーブル」シートを選択し、範囲を設定します。（該当範囲を選択すると自動的に“テーブル!”が付加されます）

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1	<商品テーブル>				関数の引数								
2	商CO	商品名	定価	期首在庫数	VLOOKUP								
3	11	商品A	2,480	73	検索値 A3								
4	12	商品B	2,610	69	範囲 テーブル!\$A\$3:\$D\$10								
5	21	商品C	1,930	46	列番号 2								
6	22	商品D	3,160	53	検索方法 0								
7	31	商品E	2,880	64	= FALSE								
8	32	商品F	2,310	71	= "商品A"								
9	41	商品G	2,230	53	指定された範囲の 1 列目で特定の値を検索し、指定した列と同じ行にある値を返します。テーブルは昇順で並べ替えておく必要があります。								
10	42	商品H	3,040	62	範囲 (には目的のデータが含まれる文字列、数値、または論理値のテーブルを指定します。セル範囲の参照、またはセル範囲名を指定します。)								
11					数式の結果 = 商品A								
12					この関数のヘルプ(H)								
13					OK								
14					キャンセル								

	A	B	C	D	E	F	G
1	商品別計算表						
2	商CO	商品名	仕入数	売上数	期末在庫数	利益額	在庫見積額
3	11	商品A					
4	12						
5	21						
6	22						
7	31						
8	32						
9	41						
10	42						

一部の文字だけが一致している文字列を検索する（ワイルドカード文字）

一部の文字だけが一致する文字列を検索するには、ワイルドカード文字を使用します。

商品名が「婦人服」で始まるデータを対象にする。

商品名に「婦人服」とつくものは「婦人服SS」・「婦人服S」・「婦人服M」・「婦人服L」があり、この「婦人服」ではじまる商品名のデータをすべて対象として集計する場合、条件の値に「*」（アスタリスク）を付けることで、対象の文字を含むものを対象とすることができます。

関数の引数

データベース データ表!\$A\$1:\$C\$9 = ["得CO","商品名","数量";1001,""]

フィールド B\$2 = "数量"

条件 \$A\$6:\$A\$7 = \$A\$6:\$A\$7

= 90

データベースの指定された列を検索し、条件を満たすレコードの合計を返します。

フィールド (には二重引用符 ("") で囲んだ列ラベルか、リスト内の列の位置を示す番号を指定します。)

数式の結果 = 90

関数のヘルプ(H)

OK キャンセル

※「*」は、半角で入力してください。

※「*」は0文字以上の任意の文字列を表します。

ワイルドカードの使用例

商品	「商品」を含む文字列 A 商品、商品 A、A 商品 1 2 3
商品*	「商品」で始まる文字列 商品 A
*商品	「商品」で終わる文字列 A 商品

フィルターオプション

「オートフィルターオプション」では、複数の異なる項目で条件を設定する場合AND条件でしか設定できません。

	A	B	C	D	E	F
1	得CO	得意先名	商CO	商品名	数量	金額
2	1001	ナカジマ	101	商品A	20	10,000
3	1001	ナカジマ	102	商品B	40	40,000
4	1001	ナカジマ	103	商品C	30	45,000
5	1002	ATKA	101	商品A	20	10,000
6	1002	ATKA	102	商品B	30	30,000
7	1002	ATKA	103	商品C	10	15,000
8	1003	精華商店	101	商品A	30	15,000
9	1003	精華商店	102	商品B	10	10,000
10	1003	精華商店	103	商品C	20	30,000

オートフィルター オプション

抽出条件の指定:

数量

10

以下

☒ AND(A) ☐ OR(O)

OK キャンセル

オートフィルター オプション

抽出条件の指定:

数量

40000

以上

☒ AND(A) ☐ OR(O)

OK キャンセル

	A	B	C	D	E	F
1	得CO	得意先	商CO	商品名	数量	金額
11						
12						

複数の項目でOR条件による抽出を行う場合は「フィルターオプション」を使用します。

例) 数量 10 以下または金額 40,000 以上を抽出する場合

	A	B	C	D	E	F
1	得CO	得意先名	商CO	商品名	数量	金額
2	1001	ナカジマ	101	商品A	20	10,000
3	1001	ナカジマ	102	商品B	40	40,000
4	1001	ナカジマ	103	商品C	30	45,000
5	1002	ATKA	101	商品A	20	10,000
6	1002	ATKA	102	商品B	30	30,000
7	1002	ATKA	103	商品C	10	15,000
8	1003	精華商店	101	商品A	30	15,000
9	1003	精華商店	102	商品B	10	10,000
10	1003	精華商店	103	商品C	20	30,000

(1) 数量「10 以下」と金額「40,000 以上」を抽出条件として別に入力します。

	H	I
2	数量	金額
3	<=10	
4		>=40000

OR条件：条件の設定は、各列の異なる行に入力します。

操作のポイント

「フィルターオプション」はAND条件で抽出することも可能です。

AND条件：条件の設定は横に並べて入力します。

例) 数量 10 以下で金額 40,000 以上を抽出する場合

	K	L
2	数量	金額
3	<=10	>=40000

- (2) [データ]タブ-[並べ替えとフィルター]グループの[詳細設定]をクリックします。
 [抽出先]に[指定した範囲]を選択し、[リスト範囲]、[検索条件範囲]、[抽出範囲]を設定します。

得CO	得意先名	商CO	商品名	数量	金額
1001	ナカジマ	101	商品A	20	10,000
1001	ナカジマ	102	商品B	40	40,000
1001	ナカジマ	103	商品C	30	45,000
1002	ATKA	101	商品A	20	10,000
1002	ATKA	102	商品B	30	30,000
1002	ATKA	103	商品C	10	15,000
1003	精華商店	101	商品A	30	15,000
1003	精華商店	102	商品B	10	10,000
1003	精華商店	103	商品C	20	30,000

得CO	得意先名	商CO	商品名	数量	金額
1001	ナカジマ	101	商品A	20	10,000
1001	ナカジマ	102	商品B	40	40,000
1001	ナカジマ	103	商品C	30	45,000
1002	ATKA	101	商品A	20	10,000
1002	ATKA	102	商品B	30	30,000
1002	ATKA	103	商品C	10	15,000
1003	精華商店	101	商品A	30	15,000
1003	精華商店	102	商品B	10	10,000
1003	精華商店	103	商品C	20	30,000

関数

データベースの列から条件を満たす値を求める：DGET関数

DGET 関数は指定した列のセルから条件に一致する値を1つ求めます。

<DGET 関数>

=DGET (データベース, フィールド, 条件)

※[データベース]と[条件]は見出し（項目名）を含めて設定します。

※[フィールド]は列の位置を示す番号や文字列を設定します。

例) 数量が最大の得意先名を求める場合

得CO	得意先名	商CO	数量
1001	ナカジマ	101	100
1002	ATKA	102	60
1003	精華商店	103	300
1004	ホープ堂	101	150
1005	谷川屋	102	280
1006	満点倉庫	103	450

=MAX(データ表!D2:D7)

文字列をセル参照する：INDIRECT関数

INDIRECT 関数は、文字列をセル番地、シート名などとして扱うことができる関数です。
これを利用し、参照するシートを選択せずセルの値を使用して行うことができます。

<INDIRECT 関数>

=INDIRECT(参照文字列, 参照形式)

組み合わせて、表の見出しの値をシート名として用いて集計します。

例) 商COごとに前期・後期のシートから数量を集計する場合

=DSUM(INDIRECT(シート名&"!セル範囲"), フィールド, 条件)

参照するシート名をB2セルの値で設定する場合

=DSUM(INDIRECT(B\$2&"!\$A\$1:\$C\$10"), 3, \$A\$7:\$A\$8)

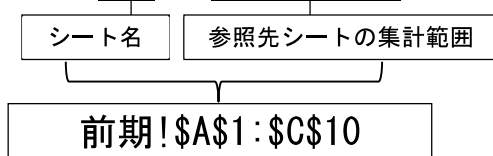
前期シート

	A	B	C
1	得CO	商CO	数量
2	1001	101	10
3	1001	102	20
4	1001	103	30
5	1002	101	40
6	1002	102	20
7	1002	103	30
8	1003	101	20
9	1003	102	40
10	1003	103	10

操作のポイント

表の見出しの値（前期・後期）をシート名として用いるので、

=DSUM(INDIRECT(B\$2&"!\$A\$1:\$C\$10"), 3, \$A\$7:\$A\$8)



=DSUM(前期!\$A\$1:\$C\$10, 3, \$A\$7:\$A\$8) と同じ処理となります。

※INDIRECT 関数を使用し、シート名の値を複合参照で行のみ固定 (B\$2) にすることにより、行列コピーした後の引数を修正する手間を省けます。

※シート名と指定する見出しセルの値は必ず同じものにしてください。(文字の全角・半角に注意)

表検索：MATCH・INDEX

MATCH 関数を使用し、範囲の中で特定の値を検索して検索範囲内での相対的な位置を返します。INDEX 関数でその値を使用し、行番号と列番号が交差する位置にあるセルの内容を求めます。

<INDEX 関数>

=INDEX(配列, 行番号, 列番号)

<MATCH 関数>

=MATCH(検査値, 検査範囲, 照合の種類)

例) 契約数と区分の値から乗率を求める場合

SUM	A	B	C	D	E
1	日付	社CO	契約数	区分	乗率
2	4/1	101	5	A	=INDEX(テーブル!\$B\$4:\$D\$6, MATCH(C2, テーブル!\$A\$4:\$A\$6, 1), MATCH(D2, テーブル!\$B\$3:\$D\$3, 0))
3	4/1	102	25	C	
4	4/1	103	16	B	
5	4/2	101	17	C	
6	4/2	102	11	B	
7	4/2	103	14	C	
8	4/3	101	15	A	
9	4/3	102	34	A	
10	4/3	103	25	B	
11					
12					
13					

関数の引数	MATCH
検査値	C2 = 5
検査範囲	テーブル!\$A\$4:\$A\$6 = {1;15;20}
照合の種類	1 = 1
指定された照合の種類に従って検査範囲内を検索し、検査値と一致する要素の、配列内での相対的な位置を表す数値を返します。	
検査値 (には、配列、数値、文字列、論理値、またはこれらの値への参照の中で必要な項目を検索するために使用する値を指定します。)	
数式の結果 = 0.01	
この関数のヘルプ(H)	OK キャンセル

	A	B	C	D	
1	<乗率表>				
2	契約数	区分			
3		A	B	C	
4		1	1%	4%	7%
5		15	2%	5%	8%
6		20	3%	6%	9%

列

配列

行

テーブル データ表

関数の引数	MATCH
検査値	D2 = "A"
検査範囲	テーブル!\$B\$3:\$D\$3 = {"A";"B";"C"}
照合の種類	0 = 0
指定された照合の種類に従って検査範囲内を検索し、検査値と一致する要素の、配列内での相対的な位置を表す数値を返します。	
検査値 (には、配列、数値、文字列、論理値、またはこれらの値への参照の中で必要な項目を検索するために使用する値を指定します。)	
数式の結果 = 0.01	
この関数のヘルプ(H)	OK キャンセル

E 2セルで設定すると

=INDEX(テーブル!\$B\$4:\$D\$6, MATCH(C2, テーブル!\$A\$4:\$A\$6, 1), MATCH(D2, テーブル!\$B\$3:\$D\$3, 0))

MATCH 関数で得た行番号と列番号で交差するセルを表検索します。契約数（1 行目）、区分（1 列目）を乗率表から検索します。

	A	B	C	D	
1	<乗率表>				
2	契約数	区分			
3		A	B	C	
4		1	1%	4%	7%
5		15	2%	5%	8%
6		20	3%	6%	9%

余りを求める：MOD関数

指定された数値で割ったときの余りを求めます。

<MOD 関数>

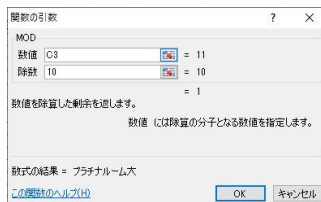
=MOD(数値, 除数)

※[数値]は割る対象、[除数]は割る数。

例) COが「11」(C3セル)の1の位を求める場合

=MOD(C3, 10)

※「11」を10で割った余り=1



日付から月を求める：MONTH関数

日付に含まれる月の値を求めます。

<MONTH 関数>

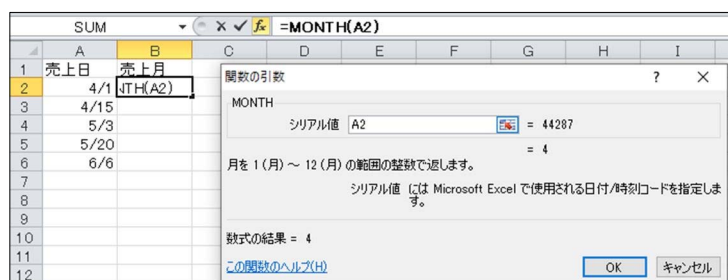
=MONTH(シリアル値)

※[シリアル値]には日付を指定します。

例) 売上日「4/1」(A2セル)の場合

=MONTH(A2)

※売上日 4/1 の月=4



条件に合った値を合計する：SUMIF関数

指定した検索条件に一致するセルの値を合計します。

<SUMIF 関数>

=SUMIF(範囲, 検索条件, 合計範囲)

※[範囲]には検索条件で検索する範囲を指定します。

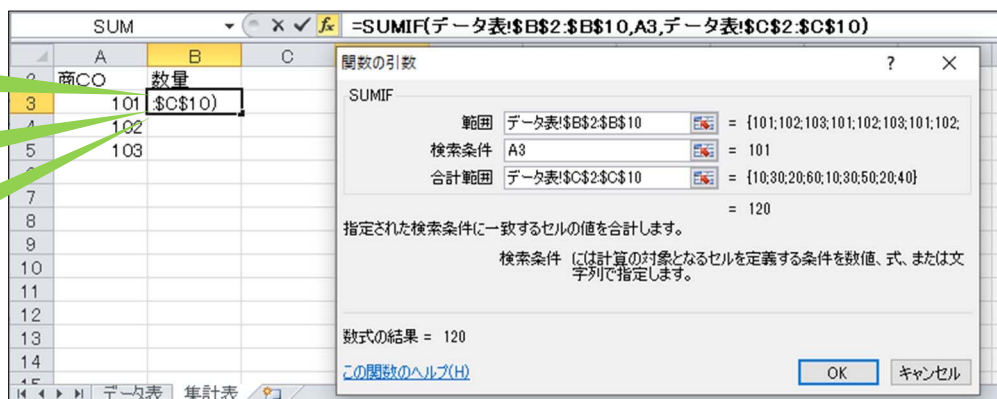
※[検索条件]には条件となる数値や式、文字列を指定します。

※[合計範囲]には実際に合計する範囲を指定します。

例) 商COごとに数量の合計を求める場合

=SUMIF(データ表!\$B\$2:\$B\$10, A3, データ表!\$C\$2:\$C\$10)

	A	B	C
1	得意先CO	商CO	数量
2	1001	101	10
3	1001	102	30
4	1001	103	20
5	1002	101	60
6	1002	102	10
7	1002	103	30
8	1003	101	50
9	1003	102	20
10	1003	103	40



範囲に対応する値をかけ算して合計する：SUMPRODUCT関数

指定した列（配列）のそれぞれの行でかけ算をした値を合計します。

<SUMPRODUCT 関数>

=SUMPRODUCT (配列 1, 配列 2, ...)

※[配列]にはかけ算をする列の範囲をそれぞれ指定します。

例) 数量と売価のそれぞれの行でかけ算をした値の合計を求める場合

=SUMPRODUCT (C2:C10, E2:E10)

The screenshot shows an Excel spreadsheet with a data table. The formula bar shows `=SUMPRODUCT(C2:C10,E2:E10)`. The dialog box on the right shows the formula and the result 46800.

SUMPRODUCT 関数の応用

指定した条件に該当する行ごとにかけ算した合計を求めることができます。

例) 商COごとの金額の合計を求める場合

The screenshot shows an Excel spreadsheet with a data table and a summary table. The data table has columns: 得CO, 商CO, 数量, 単価, 売価. The summary table has columns: 売上集計表, 商CO, 金額. The summary table shows the total amount for each merchant code.

この場合、配列 1 の中に条件を設定します。

=SUMPRODUCT ((データ表!\$B\$2:\$B\$10=A3)*1, データ表!\$E\$2:\$E\$10, データ表!\$C\$2:\$C\$10)

例) 商CO「101」の場合

商CO		売価		数量	
101	⇒TRUE × 1=1	180	×	10	=1800
102	⇒FALSE × 1=0	270	×	20	=0
103	⇒FALSE × 1=0	360	×	30	=0
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
101	⇒TRUE × 1=1	160	×	20	=3200
102	⇒FALSE × 1=0	240	×	20	=0
103	⇒FALSE × 1=0	320	×	30	=0
配列 1		配列 2		配列 3	

「(データ表!\$B\$2:\$B\$10=A3)*1」の式は、データ表シートのB2セルからB10セルの中で集計表シートのA3セル「101」と同じ値がある場合、「TRUE」、それ以外のは「FALSE」を返します。

これに1をかけることで、「TRUE」は1、「FALSE」は0に変換され、商COが「101」のものだけがかけ算の対象となります。

※条件の式（データ表!\$B\$2:\$B\$10=A3）は、必ずかっこで囲みます。

並べ替え処理に関する注意点

シートをまたいだ式や関数の設定をする際に、数式の項目に設定を行っているシート名（自シート名）が入っている場合、正しく並べ替えがされないので、並べ替えがある処理は気をつけてください。

例)

- 1) 金額＝単価×数量
- 2) 数量の降順に並べ替える。

	A	B	C	D
1	<単価表>			
2	商CO	商品名	単価	
3	101	商品A	100	
4	102	商品B	500	
5	103	商品C	1,000	

数量にシート名が付いた式

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	得CO	商CO	数量	金額				
2	1001	101	10	1,000				
3	1001	102	20	10,000				
4	1001	103	40	40,000				
5	1002	101	30	3,000				
6	1002	102	50	25,000				
7	1002	103	5	5,000				

数量にシート名が付いていない式

	A	B	C	D	E	F	G
1	得CO	商CO	数量	金額			
2	1001	101	10	1,000			
3	1001	102	20	10,000			
4	1001	103	40	40,000			
5	1002	101	30	3,000			
6	1002	102	50	25,000			
7	1002	103	5	5,000			

数量の降順に並べ替え

正しく並べ替えされない

数量を参照しているセルがずれている

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	得CO	商CO	数量	金額				
2	1002	102	50	=VLOOKUP(B2,テーブル!\$A\$3:\$C\$5,3,0)*データ表!C6				
3	1001	103	40	30,000				
4	1002	101	30	2,000				
5	1001	102	20	20,000				
6	1001	101	10	5,000				
7	1002	103	5	5,000				

正しく並べ替えされる

	A	B	C	D	E	F	G
1	得CO	商CO	数量	金額			
2	1002	102	50	=VLOOKUP(B2,テーブル!\$A\$3:\$C\$5,3,0)*C2			
3	1001	103	40	40,000			
4	1002	101	30	3,000			
5	1001	102	20	10,000			
6	1001	101	10	1,000			
7	1002	103	5	5,000			

※並べ替えの指示のある表は該当項目に処理をする自シート名がないことを必ず確認してください。

解答の上書き保存

答案はデータでの提出になりますので、必ず上書き保存をしてください。